

## 平成22年度 第2回通学区域審議会

開催日時：平成22年7月12日（月）午後1時30分から

開催場所：習志野市教育委員会1階大会議室

出席者：審議会委員 福山委員（会長）、木村委員、三浦委員、鶴岡委員、櫻井委員、吉野委員、三代川委員、村山委員、青島委員、中台委員

市側（事務局） 植松教育長、諏訪こども部長、柴崎教育総務部長、押田学校教育部長、染谷こども部参事、井上学校教育部次長、江川こども政策課長、鈴木こども保育課長、江口こども保育課主幹、江口学校教育課長、こども保育課 妹川係長、山崎学校教育課 村田係長、松本、倉信

傍聴者なし

### 議題及び会議の概要

#### 【議題】「習志野市立幼稚園の通園区域の変更について」

#### 【会議の概要】

（会長） 諮問事項「習志野市立幼稚園の通園区域の変更について」第1回の審議会では十分な審議がし尽くせなかった。改めて一人一人の意見をいただきたい。なお、通園区の変更案については、今年度に3歳になる子の保護者に対し、10月の園児募集までにはっきりとした考え方を知らせる必要がある、その前に教育委員会会議で答申の報告をした上で、通園・通学区域に関する規則の変更をするため、今回の審議会で答申をいただきたい。

#### 質疑応答

（G委員） 園区については原案通りでよいが、園区を広げても小中学校との関連の中で進めてほしい。仲間関係が心配である。

（B委員） バスについての状況は、その後変わっているか。（経路、費用等）

（こども保育課長） その後、進展はない。まだ白紙の状況である。

（B委員） 実花地区に公立がなくなることになるが、公立、私立の市の全体的な配置についての計画はあるか。

（こども政策課長） 幼稚園の需要を公立、私立全体で担っていくようにする。

（B委員） 私立化することについて、お母さんたちに、不安があるようだ。これを解消す

るために、もっと声を聞いてほしい。そして、計画の全体像を分かりやすく説明してほしい。(要望)

(こども部長) 将来的な配置計画としては、26年度末までに、公立のこども園を7つの中学校区に1つずつ配置していく。そのための2期計画も25年頃からまとめる。こども園という形で公立幼稚園の役割も担っていく。保育所についても過渡的に順次移行していく。その中で保護者には、公立、私立、こども園の選択肢を提示していく。また、実花地域の保護者に対する配慮として、送迎バスについても、今年10月の募集の際にきちんと説明できるよう検討を重ねていく。

(B委員) 決まってから説明するのではなく、決める段階でもっと市民の声を聞くようにしてほしい。(要望)

(F委員) 私はいろいろな母親の意見を聞いている。こども園のことは、認知しているが、いろいろな噂も流れている。そういう親御さんを安心させてほしい。また、保育所と幼稚園教育は、別にしてほしい。仕事を持つ保育所の保護者より、幼稚園の保護者に役員が偏るという懸念の声も聞いている。さらに、私立では経済的に厳しい。公立がなくなるのは残念である。

(H委員) 園区については原案通りでよい。いろいろと細かな要望が出ているので、これとすり合わせながら話を進めてほしい。

(E委員) 園区については原案通りでよい。弾力化地域について疑問がある。住所で分けているが混乱しないか。兄弟関係を条件にできないか。

(こども保育課長) 弾力化地域が限定されているということだが、通常の学区を超えて幅を持たせているというふうに理解してほしい。

(E委員) 3つの学区に分けるという前提に矛盾しないか。通常の学区を超えてというのが、分かりにくい。

(C委員) 園区を大きく分けることによって、選択性を広めたと理解している。弾力化区域は、園区を特定することによって行きにくくなることを防ぐためのものだと認識する。したがって、この案は適正であると考えてる。

(こども部長) 園区を大きくして学区にとらわれず選択肢を増やすというのも一つの考え方である。しかし小中学校をベースに考える人もまだ多い。一方では全市一区も望まれていると思う。そこまでは至らないが、三分割することが、一中学校区に一こども園への過渡期であると考えている。

(D委員) 3つの学区の編成でいいと思う。こども園構想に向けても正解である。また、公立幼稚園は成功例だが、今の状況は、公立は人が集まらない、私立はいっぱいということで、これが市民ニーズではないか。箱があるというだけではよく

ない。公立幼稚園の人気をあげるには、特色のある幼稚園がこれから求められる。そういうことから学区の自由化は重要である。また、バスもサービスとして出すものであって、義務として出すものではない。むしろ、私立化に当たり、引き受けてくれる受け手がいるのかという方が心配である。

- (I 委員) 時代のニーズがあるので、原則的に賛成である。ハードとソフトに分けて、ソフトを構築しながら市民に理解してもらうことが大事である。
- (B 委員) アンケートでは、こども園化、幼稚園の私立化に不安・反対という人が75%いる。この人たちの要望を加味しながら進めてほしい。
- (D 委員) この審議会はこども園構想の是非を議論する場ではない。議会でもすでに承認されているのではないのか。
- (こども部長) 東習志野こども園については、議会で承認されている。その後の計画については、議案にはならないものであるが、行政の計画として市民に公表し、進めていくものである。議会では発表し、質疑はした。
- (D 委員) この審議会は、一中学校区に一こども園という構想を基本にした園区の見直しという理解でいいのか。確認したい。
- (こども政策課長) 今言われた昨年度に構想を発表し、これがベースの第1期計画である。
- (C 委員) 市の再編計画に基づいた園区の変更であり、議会では再編計画に反対だという請願、陳情を受けてきた。最終的には常任委員会及び本会議で支持された計画であると認識している。
- (B 委員) バスのことを保護者に説明する場合、もう少しはっきりとした輪郭が必要だと思う。
- (こども保育課長) この審議会でバスが必要という答申が出たら、詳細を決めて、保護者に説明できる形にする。
- (D 委員) どのルートが市民ニーズに応えるか模索するために保護者の声を聞く、努力する等サービスの一環でなければならない。サービス精神の中で路線を考えてほしい。
- (C 委員) バスは3園区それぞれに計画しているのか。実花幼稚園を廃園することによる問題ではないのか。どちらなのか事務局に確認したい。
- (こども保育課長) 実花幼稚園を廃園することによる対応策である。
- (D 委員) その発想だと、私立の幼稚園と競争できない。何のための民営化なのか。基本

が全然違ってきてしまう。

(こども部長)

私立化への準備期間が必要となる。そうすると空白の期間ができる。実花地域から東習志野こども園も新栄幼稚園も定員オーバーで、大久保東なら行けるとなった場合の利便性を確保することがバスを検討する根底にある。金銭的な部分で保護者の負担を軽減するという考え方である。

(会長)

「幼稚園通園区域の変更について」一本化するの難しい。まとめると、大きく2つの方向性があると思う。

- ① 市内を中学校区を土台とした3つの園区に分け、市立幼稚園を希望する幼児の通園区域を確保するものとする。また、園区を広げるにあたり、通園区域に弾力化を設けて、保護者の選択肢を確保すること。さらには、通園距離に応じた通園方法の見直しを行い、自転車や自動車での送迎を認めることと、変更案を実施するのであれば、保護者の送迎にかかる負担を軽減するため、送迎バスの導入について検討する。
- ② 本市の一小学校区一幼稚園という原則を大きく変えるものであることと、園児や保護者の負担が大きいことから、認めがたいものであり、もっと保護者や市民の意見を聞くべきである。

以上、2つの意見を併記する形で審議会の答申とするが、異議はないか。

(委員多数)

異議なし。

(会長)

事務局は、審議内容を踏まえ、答申書案を7月16日までに作成し、各委員に送付してほしい。委員は、その内容に修正があれば、7月23日までに申し出、最終案は会長に一任していただきたいが、よろしいか。

(委員多数)

異議なし。